

日本の役割とSDGs

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

日本は国際社会でどんな役割を果たし、これからの社会をどう築くのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 日本の国際貢献

ODA

1 政府が途上国に行う資金や技術の協力。

日本は、戦後の復興を経て豊かになった経験をいかし、発展途上国を助けてきた。その中心が、政府が行う ¹ **政府開発援助** (ODA)である。ODAには、返さなくてよい資金を出す無償資金協力、技術や知識を伝える技術協力、低い利子でお金を貸す有償資金協力がある。

2 日本の国際協力を進める機関。JICAとも。

日本の国際協力は ² **国際協力機構** (JICA)が進めており、その事業のひとつに、若者が途上国に出向いて活動する青年海外協力隊がある。また、災害が起きたときには国際緊急援助隊を送っている。日本は、一人ひとりの命や暮らしを守る ³ **人間の安全保障** の考え方を大切に、国連などの場でも役割を果たしている。国際貢献は、国の信頼を高めることにもつながる。

3 一人ひとりの命や暮らしを守る考え方。

ODAの種類	内容
⁴ 無償資金協力	返さなくてよい資金を出す
⁵ 技術協力	技術や知識を伝え人を育てる
⁶ 有償資金協力	低い利子でお金を貸す

2 SDGsと持続可能な社会

SDGs

⁹ **持続可能な開発目標**

略してSDGs。2030年までの17の目標。

2015年の国連サミットで、2030年までに達成をめざす ⁷ **SDGs** (持続可能な開発目標)が採択された。貧困をなくす、飢餓をゼロにする、気候変動に対策をとる、平和と公正をすべての人に、など17の目標があり、「 ⁸ **誰一人取り残さない** 」ことがうたわれている。目標には、教育や保健、エネルギー、海や陸の豊かさを守ることなども含まれる。

¹⁰ **持続可能な社会**

将来の世代の暮らしも損なわない社会。

持続可能な社会とは、今の世代の願いをかなえながら、将来の世代の暮らしを損なわない社会のことである。SDGsは、国や政府だけでなく、企業、NGO、地域、そして私たち一人ひとりの行動によって達成される。身近なところから環境や人権について考え、できることを実行することが、これからの社会を築く第一歩となる。たとえば、ものを大切に使うことも、目標につながる行動である。

8 SDGsがかかげる基本の考え方。

できた / 10